

連載

Turbo HAMLOGの 部屋

Turbo HAMLOG 開発者
JGIMOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第3回

Turbo HAMLOG/Winの環境設定

Turbo HAMLOG/Win (以下、HAMLOG と略します) では、1996年の初期バージョン以来いろいろな機能を盛り込んできました。

今回は、オプションメニューから開く「環境設定」について、前号までにご紹介しなかった機能で筆者がお気に入りのものを掘り下げてご紹介します。

環境設定の「設定1」

図1は、環境設定の「設定1」のタブです。

図1 QSL発行済みとするPrefix

入力ウィンドウでコールサインを入力すると同時に、QSLカードを発行済み扱いとするプリフィックスを指定します。

特別局や特別記念局などに対してはQSLカードを発行しないことが一般的なので、無駄なQSLを減らすことを目的として最初から発行済み扱いしてしまうものです。

初期設定では[8J, 8N = N]で、8Jや8Nから始まるコールサインはQSL欄の2文字目にNが入り、QSL発行済みとします。8Mを追加する場合は、[8J,

8N, 8M = N]のように書き加えてください。

空欄にして保存すると初期設定に戻り、英数字以外の記号などを入れておくと機能なくなります。

図1 HAMLOGの環境設定の「設定1」のタブ

図1 ワッチデータを使用する

ここにレ点が入っていると、QSO データ入力時に交信に至らなかったようなデータを保存しておくことができます。

例えば、パイルアップになっている局をコールしてもなかなか交信に至らないので、とりあえず知り得る情報だけワッチデータに登録しておいて、応答が

あったら再利用する、というような使い方を想定しています。

図2は、入力ウィンドウの右クリックメニューからワッチデータに登録する状況です。

メニューの右端には Ctrl + W と表示されていますので、このメニューを表示させなくても Ctrl + W キーを押すだけで登録することができます。

図3は、図2のコールサインの交信履歴ウィンドウ

です。図3の右クリックメニューにありますように、[データを取り込む]でワッチデータを再利用することができます。

図4は、HAMLOG の表示メニューで、下から2番目に[ワッチデータの表示(A)]があります。

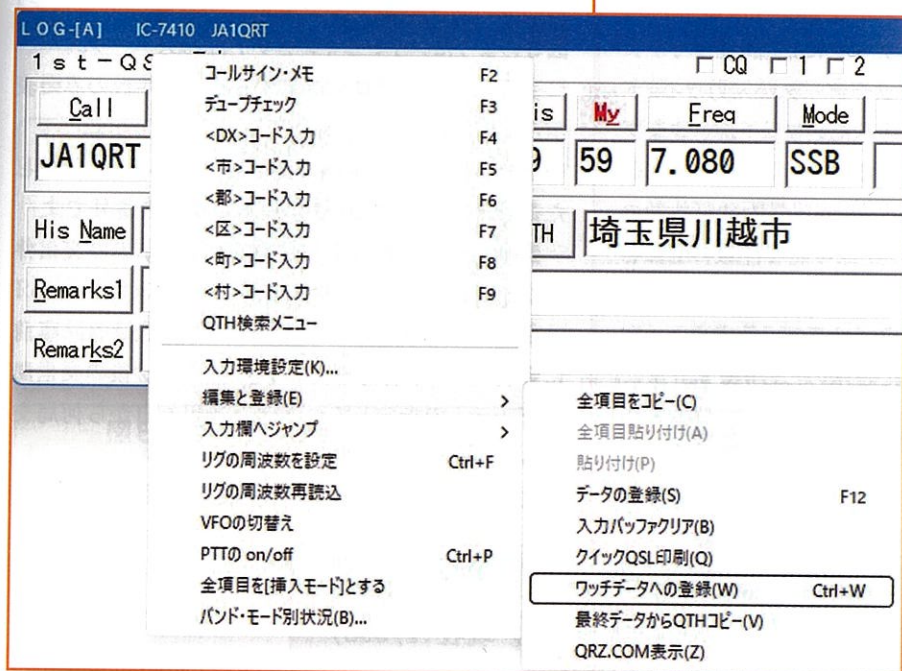


図2 入力ウィンドウの右クリックメニュー

サブメニューに[ワッチデータへの登録]がある。[Ctrl + W]は、本誌 2024 年 8 月号の本連載で紹介したキー割り当てによるショートカットキー

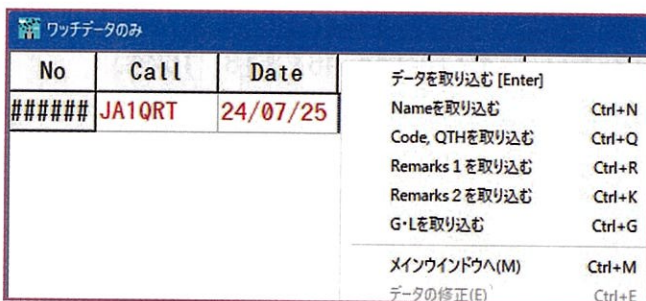


図3 交信履歴に表示されたワッチデータと、交信履歴上の右クリックメニュー

図4 HAMLOG の[表示]メニューの中に、[ワッチデータの表示]がある



ワッチデータの表示 (35/Max5000)									
先頭(T) 最後(B) 編集(E) QSOデータに追加									
No	Call	修正(E)...	My	Freq	Mode	Code	QSL	Name	QTH
34	JA1QRZ	削除(D)	59	7.042	FT8	1332	J	テスト	埼玉県久喜市
35	JA1QRT	降順に表示させる 最大登録件数の変更	59	7.062	SSB	1302	J	てすと	埼玉県川越市

図5 ワッチデータを表示し、[編集]メニューを開いた状況

図5は、ワッチデータを表示させた状況です。

図5のメニュー、[QSOデータに追加]をクリックすると、選択されているワッチデータが入力ウィンドウにコピーされます。取り込みたいワッチデータをダブルクリックしても可能です。

図5のメニュー、[編集(E)] ⇒ [最大登録件数の変更]では、ワッチデータの登録可能な件数の上限を変更することができます。最低は1,000件で、最大は10,000件です。初期設定では2,000件です。

その他、図5のメニューに表示のとおりです。

図1 このデータ後の交信局数を表示

図1の[このデータ後の交信局数を表示]で指定

した番号よりも後の交信局数と本日の交信局数を、

図6のようにメインウィンドウ下部のステータスバーに表示します。ゼロを指定すると、総件数のみの表示となります。

図1の[このデータ後の交信局数を表示]で指定した番号は、筆者の2023年最後の交信の番号です。

図6では、本日の交信件数13件、今年の交信件数2,595件と表示しています。

例えば泊まりがけで移動運用に行ったとき、事前に最終レコード番号を図1の[このデータ後の交信局数を表示]で指定しておけば、運用初日から何局交信したかが分かります。

また、入力ウィンドウでコールサインを入力して交

0813	PM97	J	新潟県燕市
最終更新:24/07/27 総件数:39,103件(本日:13/現在:2,595)			

図6 メインウィンドウ最下部のステータスバーに表示される交信件数。HAMLOGではレコード件数という

JR1TPI局との交信 (過去81回) LOG-[A] IC-7410									
No	Call	Date	Time	His	My	Freq	Mode	Code	
35003	JR1TPI	23/07/23	12:37J	+29	+23	144.461	FT8	1604	
35942	JR1TPI	23/11/12	13:49J	+14	+14	144.461	FT8	1604	
36226	JR1TPI	23/11/30	12:47J	+26	+18	7.042	FT8	1604	
37026	JR1TPI	24/01/22	16:31J	+13	+18	7.042	FT8	1604	
37551	JR1TPI	24/04/04	11:17J	-01	-01	7.041	FT8	1604	
37599	JR1TPI	24/04/04	14:00J	+02	+02	7.042	FT8	1604	
38107	JR1TPI	24/04/22	20:09J	+14	+17	3.531	FT8	1604	
38134	JR1TPI/1	24/04/25	18:18J	59	59	7.036	SSB	16001	

図7 入力ウィンドウでコールサインを入力したときに表示される過去の交信履歴。2023年は青色で表示されている

信履歴が表示されたとき、ここで指定したレコード番号よりも古いデータは、図1の[←色]ボタンで指定した色で表示されます。

図7は、入力ウィンドウでコールサインを入れて表示した過去の交信履歴です。2023年以前の交信は、青色で表示されています。

環境設定の[設定2]

図8は、環境設定の[設定2]のタブです。

図8 Remarks1, Remarks2

文字列を入力しておくと、入力ウィンドウでコールサインを入力したときにその文字列がRemarks1やRemarks2の項目にコピーされます。

自局の移動地など、必ず入力したい特定の文字列を入れておくと便利です。

図8 プリフィックス 国内局

国内局で現に割り当てられているプリフィックスを入力しておきます。

入力ウィンドウでコールサインを入力したとき、ここに存在するプリフィックスでなければDX局として処理され、入力ウィンドウの[DX]にレ点が付き、QTH欄にDXCCエンティティが入ります。

図8 1エリア例外プリフィックス

1エリアのコールサインであって、7K2～7N4のように3文字目の数字でエリアを判断できないプリフィックスを入力しておきます。

図8 QSOデータの二重化

QSOデータを別のフォルダにもう一つ置いて安全性を高める機能です。

ここにレ点を入れたときフォルダ選択ウィンドウが開き、二重に置くフォルダを指定するとQSOデータが一度コピーされます。これを二重化QSOデータと呼んでいます。

以後、QSOデータ入力ごとに実QSOデータ、二重化QSOデータの両方の内容が更新されます。

例えば、QSO中にリアルタイムにログを入力しているとき、不幸にもパソコンが物理的に壊れてしまい、起動できなくなってしまったとします。事前に、USBメモリやSDメモリーカードに二重化QSOデータを置いて運用していれば、壊れる直前に登録したログまでがUSBメモリやSDメモリー内に生きている、ということになります。

ただし、HAMLOG E-Mail QSL (hQSL) では、QSOデータにQSL受領マークを書き込むとき二重化QSOデータには書き込みませんので、実QSOデータと二重化QSOデータで内容が一致しくなくなります。二重化を過信せず最後の砦^{とりで}と考え、バックアップを優先してください。

図8 QSOデータの共有オープン

この機能は、通常の運用では使用する必要はありません。

ここにレ点を入れておくと、次回のHAMLOG

図8 HAMLOGの環境設定の[設定2]のタブ

起動から一つの QSO データを複数のパソコンの HAMLOG で共有して使用することができます。

例えば、クラブ局の移動運用等で NAS (ネットワーク接続ハードディスク) 上に QSO データを置き、LAN 経由で一つの QSO データを複数のパソコンから同時に使用することができます。

ここにレ点を入れて HAMLOG を再起動するとこの機能が有効になり、メインメニューには [再読込み (R)] が、ステータスバーには【共有】の文字が表示されます。データ共有を行うすべてのパソコンの HAMLOG でこの機能を有効にしてください。

注意点として、例えば CQ を出している間に隣で運用している方の QSO が終わっても、あなたのパソコンの表示にすぐには反映されません。この場合、コールサインを入力する、入力バッファをクリアする、メインメニューの [再読込み (R)] をクリックする、このいずれかの方法で反映されます。

図8 コールサインは横スクロールしない

ここにレ点を入れておくと、図9のようにコールサインがグレー表示となり、横にスクロールしなくなって常にコールサインが見える状態となります。

この場合、コールサインのセル幅が変更できなくなりますので、セル幅を変更したい場合はいったんレ点をはずしてから幅を調整してください。

JO6XMM局との交信 (過去71回) LOG-[A] IC-7410							
No	Call	Date	Time	His	My	Freq	Mode
28620	JO6XMM	22/05/19	15:50J	57	55	7.051	SSB
29808	JO6XMM	22/08/16	09:58J	58	55	7.116	SSB
31063	JO6XMM	22/11/01	09:40J	59	59	7.089	SSB
31245	JO6XMM	22/11/18	09:27J	59	59	7.105	SSB
32170	JO6XMM	23/01/26	10:43J	59	59	7.063	SSB
33317	JO6XMM	23/04/14	10:41J	57	59	7.063	SSB
34771	JO6XMM	23/06/20	16:41J	55	57	7.063	SSB
37766	JO6XMM/0	24/04/12	12:27J	59	59	7.062	SSB

図9 コールサインが横にスクロールできない状態

図8 QSL 受領 Insert キー

HAMLOG では、QSL カード受領チェックのとき Insert キーを押すと受領済みマークとして* (アスタリスク) が、QSL の項目の3文字に入ります。

この設定を例えば [=1;1=2;2=3;3=4;4=5] のようにすると、空白なら1を、1が入っていれば2を、2が入っていれば3を、というようにカスタマイズすることが可能です。

セミコロンで区切ることで、複数の受領マークの設定が可能です。上限はありません。

環境設定の [設定3]

図10 は、環境設定の [設定3] のタブです。

図10 東経、北緯 (緯度経度)

自局運用地の緯度経度を入力し、その右の欄には運用場所の地名を記載しておきます。[G・L 計算] ボタンでグリッドロケータを再計算します。

図10 方位と距離を表示する

レ点を入れておくと、入力ウィンドウで JCC コード等を入力したときや HAMLOG ユーザーリスト等にヒットして JCC コード等が取り込まれたとき、

方位と距離が入力ウィンドウ右上に表示されます。

これは、マスターデータ (HAMLOG.MST) に入力されている緯度経度をもとに方位と距離を計算しているわけですが、マスターデータの緯度経度は、市区役所・町村役場の緯度経度です。DX の場合は首都となります。

相手局の運用地の市区町村役場までの距離や方位となりますので、

環境設定

設定1 設定2 設定3 設定4 設定5 キー割当 7°のウ 設定6

東経 139 度 14 分 11 秒 入間郡越生町,黒山展望台
北緯 35 度 56 分 25 秒 GL計算

☒ 方位と距離を表示する
☒ 方位の矢印を表示する

緯度経度待避 復帰 E139,14,11 N35,56,25:入間郡越生町,黒山

GL: PM950W

☒ コピー・ペーストは取込後クリアする QSL受領あきらめマーク: ☐
☒ QSL受領あきらめマークはQSL未着で表示しない ☐ 標準メッセージ
確認メッセージのFont.Size: 12 ☒ [Tab]キーでクリア
☒ コピー入力時はスペースキーを押すと"/" ☒ UTC表示は[01:23Z]形式
デフォルトのエリアナンバー 1

OK キャンセル

図10 HAMLOG の環境設定の「設定3」のタブ

だいたいの目安としてください。緯度経度は、地図アプリなどで得るのが簡単です。

図10 方位の矢印を表示する

レ点を入れておくと、入力ウィンドウ右上に赤色の矢印でローテーターを向けるべき方角を示します。北が上向きです。

図10 緯度経度待避

表示されている緯度経度情報が右側のコンボボックスに退避(保存)されます。

図10 復帰

コンボボックスに退避(保存)しておいた緯度経度や地名が緯度経度欄に戻されます。

移動運用時には、固定運用時の緯度経度情報をいったん待避しておき、移動から帰ってきたときに復帰させる、という使い方ができます。

緯度経度情報は、最大50箇所を退避しておくことができます。つまり、50箇所の運用地を登録しておくことができます。

結びに

誌面の都合により、ここまでとさせていただきます。次号をお楽しみに。

◎◎

Column

本誌 2024 年 8 月号で数字のゼロに斜線を入れる方法について書きましたが、「もう少し詳しく」という要望がありました。いろいろ方法がありますが、一例をご紹介します。

1. まず、次のホームページを開いてください。文字情報技術促進協議会のページです。
<https://moji.or.jp/ipafont/ipa00303/>
2. ホームページ左下のほうの「TTF ファイル」の中に次の項目があります。
• IPA ゴシック (Ver.003.03)
ipag00303.zip (4.09 MB)
3. ipag00303.zip をダウンロードし、同ファイルの右クリックメニューで「すべて展開」を実行すると、「ipag.ttf」というファイルがあります。
4. ipag.ttf ファイルの右クリックメニューの中に「インストール」があります。もし、なければ、「その他のオプションを確認」の中にあります。(Windows 11の場合)
5. 以後、HAMLOG のフォント選択ウィンドウの中で「IPA ゴシック」を選択することができます。これらは Windows の操作となりますので、詳細は Google 等で検索してみてください。